※文字の大きさは Meiryo UI ／12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、（写真１）（表１）などと文中に記載し、右ページに（写真１）（表１）などと表記の上、貼り付けてください。
※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は、変更可能です。
※いずれの場合も、必ずＡ３片面１枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは５MB 以下としてください。

【様式１】

＜エントリーシート＞ ※ 事 務 局 記 入 欄 No.：A － 12	部門 **研修成果部門** **（平成３０年度副校長・教頭等研修）**	学校名・氏名 **茨城県白鳥学園那珂市立瓜連小学校　教頭　武居　幸雄**
	活動名 **「チーム学校」を具現化するための教頭の役割** **教職員が力を発揮できる環境整備**	

課題の設定：

不登校児童，特別な配慮を要する児童への支援，保護者対応等が増加するするとともに，児童の個別のニーズに応じた対応が求められるなど，学校が直面している課題が増加するとともに複雑化している。
そこで，担任を孤立化させることなく，教職員一人一人が自信とやりがいをもって学習指導や生徒指導にあたれるよう，「チーム学校」の具現化を目指すための教頭の役割を追求する。

方針・計画：

○ 教職員一人一人の課題対応力と子ども一人一人と向き合える教育活動環境を整備することにより，教職員の自信とやりがいをもって教育活動を実践することができるようにする。
・人材育成の充実→教員人事評価の活用，教頭だよりの発行，校内研修の充実　等
・業務環境の改善→職員会議の効率化，生徒指導・特別支援教育体制の充実，メンタルヘルス対策　等

活動内容：

・人材育成の充実については，主に校内研修の充実に取り組み，教職員からの要望の多かった教育相談研修と授業改善研修に取り組んだ。授業改善研修については，若手教員の育成に重点を置き授業参観シート等を活用して良かった点や改善点について指導助言を行った。写真１・２
・業務環境の改善については，主に生徒指導体制を構築するとともにケーススタディを実践することで「クライシスマネジメント」としてのチーム体制の機能の充実に努めた。図１

活動の成果：

・教員評価面談の中で自己申告書作成の模範モデルを示したり，組織目標の意識化を図ったりすることで各教職員がグランドデザインの数値目標の達成に向けての意識が高まった。（教職員アンケート図２より）
・教育相談研修の充実及び教頭だよりを通して最新の教育情報や教育技術を提供することで担任の課題への対応力や授業力が向上し，教職員の自信とやりがいの高揚がみられた。
・職員会議の効率化により，１時間以内で会議が終了するようになった。また，企画会から学年会への伝達を確実に行うことで，情報漏れが少なくなり起案内容や学校運営の共通理解・共通実践につながった。
・「クライシスマネジメント」としてのチーム体制の構築により，職員の動きが明確でスムーズに分担・分業が容易にできるようになった。ケーススタディを充実させることで教員の資質能力の向上につながり，学校現場の協働体制の構築に結びついた。担任を孤立化させることなくチーム学校として課題解決に当たれるようになった。

アピールポイント（アイディアや工夫）：

・ベテラン教員の自己申告書をモデル化し，目標の連鎖や達成可能な目標数値の設定を助言した。
・教頭だよりを適宜発行（年間８０号）し，最新の教育情報や教育技術等を紹介した。
・教頭が専門性を生かして校内研修の講師となり，教育相談研修や授業改善研修を行った。
・ケーススタディを行うことで「その時学校はどうするのか」についての教職員のリスクマネジメントに対する意識を高めた。
・教職員による教頭の評価や要望について，アンケート調査を行った。

写真１ ＜校内研修の充実：教育相談＞

グループ・エンカウンター

傾　聴　訓　練

授業参観チェックシート

番号	項目	授業の観点	水時	よかった点	改善点
1	目標設定	学級の実態に応じた目標設定になっているか。			
		本時の学習内容や活動の流れが提示されているか。			
2	学習指導の在り方	実態に即した，学習形態になっているか。（ペア・グループ・全体）			
		精選された発問がされているか。			
		板書が構造化されているか。			
		教材・教具は一人一人の実態に合っているか。			
		興味・関心を生かした自主的・自発的な学習活動となっているか。			
		児童相互の主体的にかかわる場の設定がなされているか。			
		教員間の役割分担や連携ができているか。（ティーム・ティーチングの場合）			
3	評価の工夫	「振り返りの時間」が確保されているか。			
		「何が分かったか」について児童一人一人が自分の考えを書くことができているか。			
4	その他	指導案に必要な事項が分かりやすく表現されているか。			
		家「記の観点に「協議したい観点」がない場合，記入する。			

若手教員授業力向上研修

課題の提示1
【良かった点】
・課題提示を視覚化して児童の関心をひきつけた。
・挙手の仕方（黙って挙手）や答え方等の規律が定着している。
【改善点】
・注目させる指示がほしい。
・指示，説明の強弱をつけて話す。

図１ ＜生徒指導体制の充実＞

ケーススタディの実践

○ 生徒指導主事の補佐　○ 臨時生徒指導部会議
○ 短縮事例法

① **アセスメント**　② **個人→全体**
③ **担任の感想**　④ **指導・助言**

「誰が・誰に対して・何を・いつまでに」を明確に！

自校アセスメント表

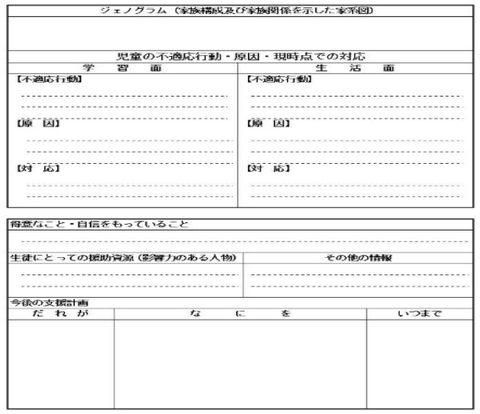

図２ ＜教職員による教頭の評価と要望＞

○　教頭便りで共通理解や教育情報を確認することができた。
○　職員室の雰囲気が明るく，居心地がよかった。
○　気がつくと教室にいて児童を支援してもらえて助かった。
○　職務への意識が変わった。

1	管理職として必要な知識（法的・事務処理等）をもち，教職員に適切な助言ができたか。
2	学校事故（児童の怪我等）等の不測の事態に対し，教職員へ迅速・適切な指示が出せたか。
3	児童及び教職員が安全で安心な学校生活及び教育活動が実践できるよう環境の整備に努めていたか。
4	生徒指導や保護者対応等，チーム学校として対応ができるよう努めていたか。
5	教職員との人間関係づくりに努め，職員室内を相談しやすい雰囲気にしていたか。
6	教育情報や教育技術について適切に情報提供したり，具体的な助言をしていたか。